第6回 アルトゥール・ルービンシュタイン国際ピアノコンクール

約束の地で 新たなる約束

report——Yoshiko Ikuno
photo——Jiro Mochizuki

遠い昔の時代、モーセがエジプトを逃れ同胞であるユダヤの民を率いてシナイ山に定住したのは、彼らの神ヤーウェとの契約に基づくものだった。やがてさまざまな動乱の歴史の果てにこの聖地エルサレムは、救世主イエスの贖罪により新たなる契約を得た。そして、7世紀にはソロモンの神殿の廃墟にイスラム教の岩のドームが建立され、以来このエルサレムは、ユダヤ、キリスト、イスラムの三大宗教の聖地となる。こうして旧、新、二重、三重もの契約に取り巻かれたエルサレムは、それぞれの宗教を持つ人たちの約束の地として、心の中に深く宿っている。

そのエルサレムに近いテル=アヴィヴで、去る4月第6回ルービンシュタイン国際ピアノコンクールが開かれた。3年前の第5回は1位なしという結果で話題になったが、今回は何と1位2人。コンクールは、毎回何が起こるかわからない。しかしただひとつ言えることがある。そのコンクールが終わった後が、新たなる始まりであるということだ。入賞した人もそうでない人も、恐らく新しい思いを胸にまた一歩前進してくれることだろう。自分だけの約束を胸に——。

エルサレムの会場
表彰式とガラコン
サートが行われた

「友だちがたくさんできたし、ここは何もかも最高」

第1位
イアン・フォンティーン
FOUNTAIN, Ian

国籍：イギリス
年齢：19歳
出身校：王立ノーザン音楽大学
ファイナルで演奏した曲：
チャイコフスキー／ピアノ協奏曲
第1番作品23

第3位
クリストフ・ヤヴォンスキ
JABLONSKI, Krzystof

国籍：ポーランド
年齢：24歳
出身校：カトヴィッツ音楽院
ファイナルで演奏した曲：
チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番作品23

ウォーターマン夫人

ピストリッキー氏

第4位
フランソワ・キリアン
KILLIAN, François

国籍：フランス
年齢：26歳
出身校：パリ国立高等音楽院

「コンクール優勝後が大変、将来のこと本気で考えなくちゃ」

第5位
ピエトロ・デ・マリア
DE MARIA, Pietro
国籍：イタリア
年齢：21歳
出身校：ジュネーヴ音楽院

第1位
ベンジャミン・フリス
FRITH, Benjamin
国籍：イギリス
年齢：31歳
出身校：リーズ大学
ファイナルで演奏した曲：
ショパン／ピアノ協奏曲第2番
ヘ短調作品21

コンサートのポスター
アルゲリッチのもある

第5位
リナ・ドシツキー
DOKSHITSKY, Rina
国籍：イスラエル
年齢：23歳
出身校：ニューイングランド音楽院

ラン・ツェマッハと楽屋でバッタリ。「日本の聴衆は僕にとって最高。近いうちにぜひまた日本に行って演奏したい。僕はヤヴォンスキが好きで応援に来たんだよ。若いイアンもすごいと思うし。本当にコンクールって年々レベルが高くなっていくんだね。日本のみなさんによろしくって伝えて！」

●ヤマハ・コンサート・チューナー
瀬川　宏

調律は体力と気力が必要条件

今回の公式ピアノはスタインウェイ、ヤマハ、カワイ、ファツィオリの4社。舞台裏では連日各チューナーが大奮闘。そのひとり、ヤマハのコンサート・チューナー瀬川氏に調律の苦労、楽しさ、魅力をインタビュー。

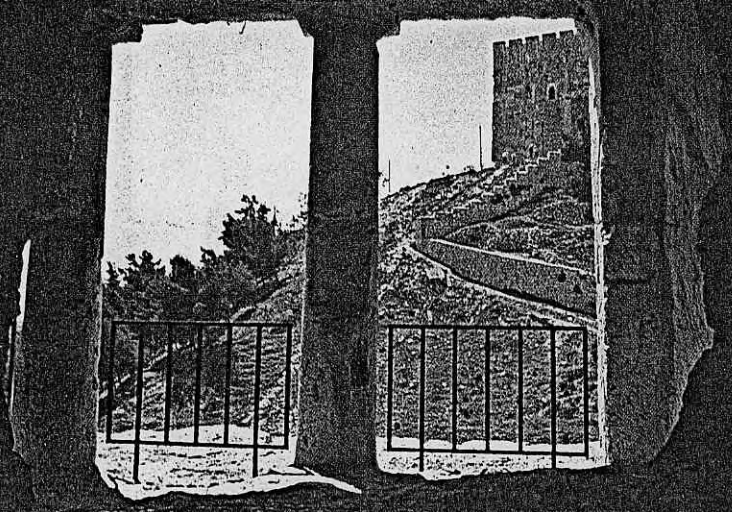
――この仕事に入ったきっかけは？

10歳の頃から大学時代までずっとチェロを弾いていたんですが、伴奏してもらう時のピアノの調律がひどくて、自分が弾く時の伴奏者の楽器は自分で調律をしたいと思っていました。でもその頃は別にそれを仕事にしようなどとは思っていませんでした。それがふとしたことからヤマハのピアノ技術研修所の募集広告が目に止まり、試験を受けたのがきっかけですね。

――仕事上必要なことは？

何といっても体力ですね。今回も4人のチューナーが交替で仕事をするわけですから、参加者のピアノ選びが終わって実際自分が始めるのは夜中12時すぎから明け方の4時までとかね、あるいは朝5時からリハーサルの前までとか、やはり体力第一。次に根気。音楽が本当に好きなら大丈夫です。

――これからチューナーを目指す人に一言

スポーツを何かやって体力をつけること。外国語はどれかひとつマスターすること。あとは楽器を人前で演奏する機会があったらこれは経験した方がいいですね。演奏家が本番の日舞台でどういう精神状態なのかということが少しでも理解できますから。あとは音感がいいこと、指先が器用なことなんていろいろありますけど、要は体力と気力があれば十分できますよ（笑）。

――ありがとうございました。